

発行所(郵便番号100)
東京都千代田区丸の内2-4-1
丸ノ内ビルディング781号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel (212) 4007-1447
編集責任者 中嶋 博
印刷所 関東図書株式会社
定価200円(年間購読料1000円)
1988年11月25日発行
第20巻 第11号
(毎月1回25日発行)
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 20 No.11

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No.781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

スウェーデンの21世紀への挑戦

Swedish Challenge for the 21st Century

常務理事 中嶋 博

Managing-Director, Prof. Hiroshi Nakajima

去る10月13日のA紙に、“盲目の福祉大臣を支える伝統”の見出しで、スウェーデンのベンクト・リンドクヴィスト氏が、10月4日の社民党の新組閣で現職への残留が決まったことが報じられていた。同氏は1985年、当時のバルメ首相に抜てきされて大臣になっていた方である。一体どこに身障者をあえて大臣に就任させる国があるだろうか。

さてこの国内の福祉社会建設に尽力し、また世界の平和の使徒としてのウーロフ・バルメが亡くなって早や2か年の歳月が流れようとしているが、このほどバルメの偉業をたたえた“南北対話の新しい展望”が出版された。その寄稿者の幾人かをあげてみると、西ドイツのW・ブラント、インドのR・ガンジー、タンザニアのA・M・バブ、キューバのF・カストロといった具合であり、改めて彼の人類の平和と福祉への献身ぶりが、偲ばれるのである。

さてこうした社民党路線の評価と共に、学問はそれらの影響から独立して、はじめて重みをもつものであることを示してくれているものとしてウップサラ学派に注目したい。

その一つは、L・J・リンドクヴィストによる“スウェーデンにおける住宅政策と保有一中立への疑問”(1988年)であり、1945年以降の住宅政策の動向を検討し、公的部門、協同組合、民間部門のそれぞれによる住宅供給は、政治的ではなく、ライフサイクルと人口動態に合わせて行われるべきことを明らかにしたものとして重要である。

また、C・パパハリストドウロウの“スウェーデンにおける発明、技術革新と経済成長”(1987

年)は、今日スウェーデンはヨーロッパ病にさいなまれることなく失業率も最低となっているのは、資本主義経済は創造的企業者が生産手段の新結合、すなわち革新を行うことによって発展するというかのJ・A・シュンペーター理論を、1970年代から80年代にかけて適用することによって成功を収めることが出来たとして、副題にあるようにシュンペーター理論を高く評価している。

この革新ということに関して、ついこのほど手許に届いた学校教育庁(SÖ)の研究開発プログラムによると、同庁の支援になる研究開発プロジェクトのみを取り上げてみても、1984/85年に41であったものが、逐年増加し、1987/88年には52にもなっているように、研究開発に力を入れるこの国の姿勢の一端を窺うことができる。(1987年度国の研究開発費の対GNP比は3%であった)

いずれにせよ実験社会スウェーデンは、自由と福祉のスカンジナビア・デモクラシーの下に平和な21世紀を迎えるべく果敢な挑戦を試みているということができよう。

目次

スウェーデンの21世紀への挑戦 …中嶋 博… 1
(叙勲) 山下勇氏、ハンブレアス氏 …… 2
スウェーデンの幼児保育の現状(視察団報告) ……………荒井 洌… 2
北欧幼児保育調査視察団訪問先一覧 …… 4
北欧幼児保育調査視察団参加者名簿 …… 4
〈ストックホルム通信〉1988年7月1日から 施行・改正された法律 ……三瓶恵子… 5

山下勇日瑞基金会長 北極星勳章一等コマンドー章受章

社団法人日瑞基金山下勇会長には、去る9月29日スウェーデン大使館にて、スウェーデン政府より北極星勳章一等コマンドー章 (Commander, First Class of the Royal Order of the Polar Star.) を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

グンナー・ハンブレアス氏 勳三等旭日中綬章受章

元スウェーデン王立理工学アカデミー総裁、元日瑞基金会長グンナー・ハンブレアス氏には、11月3日付にて勳三等旭日中綬章を受章されました。心よりお祝い申し上げます。

スウェーデンの幼児保育の現状

Today's Pre-schooling in Sweden

— スウェーデン社会研究所「第2回北欧幼児保育調査視察団」報告 —

団長 荒井 洌

Group leader Kiyoshi Arai

○プロローグ

1986年の第1回北欧幼児保育調査視察団の派遣に続いて、本年、第2回めの北欧幼児保育調査視察団が派遣された。

8月24日から9月4日までの視察は、スウェーデンを中心に、デンマーク、西ドイツの3か国にわたった。メンバーは総勢29名であった。メンバーのほとんどは、幼児保育の現場に勤務する現職の保育者である。なお、参加の希望が多く、残念ながら何名かについてはお断りせざるを得ないほどだったということは、日本の幼児保育界における北欧への関心の高まりを示すものと思われる。

○事前の勉強会

今回の視察団派遣については、事前の勉強会を、早い時期から、かつ熱心に行うことが出来た。ちなみに、第1回めの勉強会は、渡瑞する約1年前、すなわち1987年9月19日であった。

したがって、各メンバーはスウェーデンの幼児保育に関する書籍やパンフレットを、事前にかなり目を通すことが出来たようである。このことは、今回の視察団に関して、一つのよいことだったと思っている。

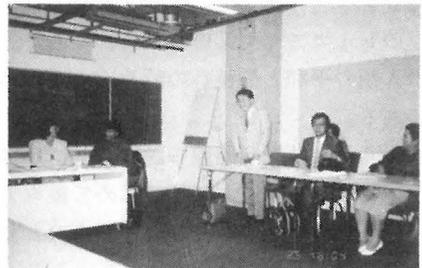
○スウェーデン社会福祉庁でのレクチャー

ストックホルムでは、スウェーデンの幼児保育問題全般を主管する、社会福祉庁の担当セッションの責任者から、充実したレクチャーを聞くこと

が出来た。

説明に当たったのは Karen Blomqvist (カーレン・ブロムクビスト) 女史であるが、彼女の車椅子を使っている仕事ぶりは、われわれにとって実に印象深いものがあった。

説明は政策から現状まで詳細にわたったが、現時点では全国で50,000名ほどの幼児が保育所の空席を待っているとのことであった。なお、国の方針としては、1991年までに需要を完全に満たせるようにとの計画であるという。推移を見守りたいと思う。



社会福祉庁でのレクチャー 左端が Karen Blomqvist 女史、立っているのが筆者

なお、わが国でも問題となっていることだが、夜間、あるいは早朝の保育については、スウェーデンでも当然のことながら需要があり、解決しなければならないテーマであるとのことだった。

○ daghem (昼間の家庭) についての印象

スウェーデンの保育所は daghem (ダグヘム)

という愛称で呼ばれているのだが、このネーミングはスウェーデンの幼児保育のありようをよく示すキー・ワードだと思われる。日本語に置き換えれば“昼間の家庭”であり、すなわちアット・ホームであることが主眼となっているのである。

視察団のメンバーの中の若い保育者の1人は、ダグヘムの第一印象を次のように書いている。

「緑や起伏の多い広々とした園庭。小さな子ども安心して遊べるように柵で守られている空間もある。遊具は触わって温かみのある木製が多く、素敵だなあと思いました。



小さな子どもたちのための、園庭の中の
かわいい囲い — Stockholm の保育園にて

さて、園庭に驚いたと思えば、園舎内もこれまた素晴らしい。日本のように学校をモデルにしていけないから、まことに家庭的で部屋数も多い。一つの部屋で、遊んで食べて、ではないのです。

遊びが盛り上がりつつも、さあ、お片付けよ！ という、時間とスペースの無さからくる無情な保母の呼びかけなど、必要としないのです。なぜなら、ごっこ遊びの部屋やら、リビングルームやら、食事の部屋やらがきちんとあるのですから。ごっこ遊びの部屋には、子ども向けの小さなテーブルや椅子、乳母車などもあるのですもの。」(中島明子)

子どもたちの生活空間の問題を、長い保育歴を持っているメンバーの1人は、日本のそれとを比較して、次のような感想を述べている。

「日本の保育所の建物は、何ととっても狭ま過ぎるのです。高度経済成長の時代、私たちは人員増の要求ばかりしていて、建物面積の拡大のほうは、あまりやらなかったように思います。もちろん当時は、人員増も絶対必要ではあったのですが、設備や建物についての考え方が、若干比重が小さかったのでしょう。

外国人が日本人の暮しぶりを見て、車はピカピカで大きいのに、住居は狭くてあまりきれいではないと、あるテレビ番組で発言していましたが、

確かにそう思われます。お金の使い方が、日本では目先きのことに集中し、ヨーロッパの人は何十年かを単位として考え、耐久的なことにお金をかけているのでしょうか。」(山城清子)

○スローガンが見えなかったことについて

日本の保育所なり幼稚園を訪問すると、まず目につくのが「保育目標」といった形でのスローガンである。人目につきやすい所に大書されている。内容は、いうならば優等生的幼児像で、精神主義的なニュアンスのものが多い。

とりわけ、最近よく見かけるのは、“自主性”をうんぬんしたものである。日本でこのような傾向が強いということは、分析を要する一つの研究テーマだと思うが、このことについて鋭い観察をしている人がいる。

「保育園見学やレクチャー、貴重なパンフレットの数々を通して、私は、日本の保育現場で日常的に使われている“自立”“自主性”“自発性”といった言葉に出会わなかったことを不思議に思いました。そして、これらの言葉を反響していくうちに、この言葉の中には、たてまえ主義的、教育的発想が強く含まれていることに気がきました。

“自立”“自主性”“自発性”という言葉を、これまで私は、保育目標のように使ってきましたが、実はこれは大人の側が掲げるべきことではなく、保育の中で、子ども自身の中に、おのずと芽ばえてくるものなのです。

私たちは、これまで、こちらでルールを敷いた一斉保育という方法を通して、“自立”“自主性”“自発性”を育てるという目標を定めてきました。スウェーデンの保育理念を見ると、私たちは、これまでの方法と目標を、共に、今、考え直してみる必要性を強く感じました。」(迫田圭子)

○生活の中での何気ない教育について

日本の保育施設においては、保育者による意図的な指導が保育活動の中心になっている。しかし、スウェーデンの場合は、そのような傾向がきわめて弱い。ごく自然な生活の中でなされているといった感じである。このことについての意見を見よう。

「昔、職人さんは仕事を教えられるのではなく、盗んで、真似して学ぶということだったようですが、最近は系統立てて学ぶ時代になりました。そ

れはそれで良いことだと思います。でも、家庭においても、お惣菜が料理教室へ行かなくては学べなくなってきたことなどは、いささか考え込まされる問題のような気がします。母親や父親から子どもへという、生活の知恵の伝えあいが無いということは寂しいことだと思います。

文字や数字では表わすことのできない微妙なものを、家庭で大切にするとともに、昼間の家庭である保育所でも守り伝えていくことが、幼児保育の根本ではないだろうかと思っていました。」(柿沼弘子)

○緑の天国 — プレイグラウンド



三輪車ならぬ“五輪車” — Stockholm
のプレイグラウンドにて

自然の起伏や樹木を、できるだけそのままの姿で生かした広大な遊び場であるプレイグラウンド

は、ただただ感嘆の一語である。緑と子どもと動物のアンサンブルは、絵にも歌にもなる。しかし、このようなことを実現するには、実に力強いポリシーが必要なのであろう。次のような印象は、メンバーの誰しもが持ったことだと思う。

「一番印象に残ったプレイグラウンドについては、まさに“Great!”のひと言で、あのよう広い所でのびのび遊び回れる子どもたちは、何と幸福なことであろう。日本であつたら危険だからと登らせてもらえないような小屋の屋根に2人の子どもが登って顔を出していたが、その生き生きとした表情はうらやましい限りであった。

一つ尋ね忘れたこととして、補償問題は起きたことがないのかなと思った。もし、怪我でもすると、日本では難しい補償問題があり、つい危険なことは避けてしまいがちであるが……。」(高木美恵子)

○エピソード

今回の視察の旅は、きめの細かい準備と、それに対応した実にていねいな受け入れ態勢とに恵まれた。このことは、スウェーデンはもとより、デンマーク、西ドイツにおいても同様であった。これはひとえに、スウェーデン社会研究所のご配慮の賜物と深く感謝申し上げる次第である。

北欧幼児保育調査視察団 (1988・24/8~3/9)

訪 問 先 一 覧

STOCKHOLM

Socialstyrelsen (National Board of Health and Welfare)
Skrivab Skol- och Kontorsmaterial AB (Material Centre)
Daghemmet Dillen (Day Care Centre)
Aspuddsparken (Playground)
Barnmiljörådet (Swedish Child Council)
Daghemmet Myntet (Day Care Centre)

KØBENHAVN

The Kindergarten
The Nursery
The Freetime Centre

BREMEN

Kindertagesheim in Bremen-Grohn

KASSEL

Kindertagesstätte Oberzwehren.

北欧幼児保育調査視察団 参加者名簿 (敬称略、アイウエオ順)

(団 長)	荒 井 洌	埼玉県立衛生短期大学助教授
(団 員)	池 田 節 子	熊谷市立曙町保育所所長
	石 川 一 枝	熊谷市立荒川保育所所長
	井 手 節 子	北区立上十条南保育園園長
	植 田 孟 子	天使園子どもの家園長
	小 津 玉 枝	上尾市立しらこぼと保育所主任保母

小原良江	豊島区立高松第一保育園園長
嘉規小夜子	川口市立仁志町保育所所長
柿沼弘子	熊谷市立中条保育所所長
金戸尚子	学生
川村晃子	板橋区立高島平くるみ保育園園長
斎藤節子	あけぼの保育園園長
斉藤美智子	足立区立伊興前沼保育園保母
迫田圭子	茶々保育園園長
菅原小夜子	目黒区立中目黒保育園主任保母
高井イクノ	板橋区立板橋保育園園長
高井理恵子	学生
高木美恵子	花園保育園園長
田島珠子	狭山市立広瀬保育所所長
土屋ケイ子	北区立西ヶ原東保育園園長
中島明子	大田区立大森北六丁目保育園保母
永田美江	熊谷市立石原保育所所長
野崎真澄	大田区立大森北六丁目保育園保母
福田恵美子	桶川ときわ幼稚園教諭
溝呂木美津江	狭山市立第三児童館主任
見村祐加利	四恩学園苅田保育所保母
宗形宏子	目黒区立上目黒保育園主任保母
山城清子	加美平保育園園長
(添乗員) 小笠原長保	東海トラベルビューロー営業課長

〈Stockholm通信〉

1988年7月1日から施行・改正された法律 (教育・福祉・社会関係抜粋)

New laws and regulations enforced on 1988-07-01

会 員 三 瓶 恵 子
Ms. Keiko Kjellsson-Sampej

今年のスウェーデンは東海岸、西海岸両地方とも大変暑い日が続きました。7月は工業休暇で、スウェーデンの人々は街なかから脱出しましたが、スウェーデン社会はいまだにレイヨン法務大臣辞任を招いたカールソン事件に揺れており、政治家は夏休みどころではなかったようです。レイヨン大臣が辞任したのは簡単にいえば、パルメ元首相を暗殺した犯人を独自に追っている私立探偵に同大臣があたかも彼が公務をうけおっているかのような推せん状を書いたためです。しかしその私立探偵エッペ・カールソンがもともと社民党、ストックホルム警察、特殊警察と密接なかかわりあいをもっていたことから、レイヨン大臣辞任後も政

府内部にもいろいろ批判の声がおこり、最近ではフェルト大蔵大臣の妻であるフォン・オットー女史(大蔵省広報書記官)がカールソン首相を名ざして批判した記事が社民党系夕刊紙に出たりしています。

エッペ・カールソン事件は大変根が深いものようで、それについてはまた別の機会に書くことにして、今回は7月1日から施行された新法律・規則をご紹介します(スウェーデンの法律は国会会期の関係からか、あるいは年度の数え方からか7月1日または1月1日施行というものが多ようです。)

・姓の変更手続きが簡略化された。夫婦は妻の

姓をなることができるようになった。

- ・犯罪にあった場合の賠償がうけやすくなった。物だけでなく心理的“受難”に対しても賠償が受けられるようになった。
- ・国選弁護人をつけることができる収入の上限が基本額の5倍（現在170000クローナ）に引きあげられた。
- ・犯罪にあった者が事情聴取や裁判に出ている間に法的代理人を得る権利をもつようになった。
- ・何物かにつきまといられている者が警察に保護を求めた時に、当局はその者を訪問したり連絡をとったりすることを禁じることができるようになった。
- ・若年犯罪者に対する罰則がより迅速で大きなものになった。
- ・麻薬の使用が罰則の対象になり得るようになった。
- ・留置人の取り扱いが従来よりオープンでなくなった。
- ・公的催物や集会の場にナイフやその他の危険物をもっていくことが禁止された（いくつかの例外規程あり）。
- ・証人の謝礼が従来の1日200クローナから300クローナに引きあげられた。
- ・陪審員が最高600クローナまでの謝礼をうけとることができるようになった。
- ・個人に対する行政側の決定が政府裁判所で取り扱うことができるようになった。
- ・武器輸出のチェックがより厳しくなった。
- ・徴兵中の支給金が月額30クローナに、また家族手当が子ども最高1375クローナ、他の家族最高2450クローナにそれぞれ引き上げられた。
- ・臨時親手当が年間子ども一人につき90日まで支給可能になった。しかし生後240日未満の子どもに対しては一般的に適用されない。
- ・障害児をもつ親に対する看護手当支給の対象がひろげられた。
- ・新しい疾病手当計算方法の採用。
- ・16歳以下の者が雇用労働をしている場合、保険局への申請によって疾病手当の権利を得られるようになった。
- ・処方箋による薬の購入は一回につき最高65クローナになった。
- ・医師・看護婦の診察税、治療税がそれぞれ平均5.7%および5.9%に引き上げられたが患者の

支払う額（現在は50クローナ）は据え置き。

- ・寡婦年金制度改正。夫の生前の付加年金をうけとれるようになった。
- ・執達吏当局が各県に設置されるようになった。
- ・新基礎学校法施行。
- ・障害をもつ成人のための教育規定が成人教育法に組み入れられ、州議会は精神的発達障害者のための成人教育を供給することになった。
- ・各コミュニティが担当している移民のためのスウェーデン語教育の上の段階の教育に対し国家補助金が支給されるようになった。
- ・地域委員会廃止にともなって高等教育機関法改正。各高等教育機関はその活動計画や他との協力について従来より大きな自主性をもつようになった。
- ・ラジオ・カセット新聞活動が恒常化し、国家補助金をうけるようになった。管轄当局として“聴覚新聞委員会”設置。
- ・新動物保護法施行。
- ・農地、農業等に関する法律改正。
- ・1988年12月31日まで牛・豚農場新設禁止。
- ・青少年組織の活動に対し特別補助金支給。国家青少年委員会がより大きい影響力をもつようになった。
- ・失業保険の日額が1988年7月4日から425クローナに引き上げられた。
- ・（失業対策）労働市場補助金が1988年7月4日から月額149クローナに引き上げられた。
- ・労働市場教育（失業者又は失業のおそれのある者に対する職業教育）および職業リハビリ教育をうけている者に対する支給金が1988年7月4日から425, 255, 181クローナに引き上げられた（3段階のレベルあり）。
- ・臨時休暇・臨時解雇に対する国家補助金の額が月額375クローナに、また天候による臨時休暇に対しては月額290クローナに引き上げられた。国家補助金をうけられる天候による臨時休暇日数が年最高45日に引き上げられた。
- ・家・アパート・部屋の又貸しをし、市場の一般価格よりもあまりに高すぎる家賃をとっている者に対して、差額を払い戻させるようにすることができるようになった。
- ・過疎地域に対する援助額が引き上げられた。

（参考：Riksdag & Departement）
Nr24. 1988-07-08